

和良の郷だより

たくましく大きく育て和良鮎
— 和良川・稚鮎の放流 —



暖かく晴天が続く、和良川沿いの桜もようやく咲き揃ったと思った矢先に天候不順となり、なんと前日は雪まで降ってしまいました。4月9日（月曜日）も、時折雨のバラつく本当に寒い日となりました。今日は各所で入学式の便りも届いて来ましたが、和良川でも鮎の入学式とも言える「稚鮎の放流」が行われました。

和良川での稚鮎の放流は、3日間をかけて行われますが、初日は和良鮎の生まれ故郷の琵琶湖まで同行して取材を行いました。

和良鮎は琵琶湖産と岐阜県産で構成されています。今年度は琵琶湖産が1,150kg、県産が300kg、合

初夏号
5月1日号
和良おこし協議会発行



計1,450kgをこの3日間と、6月に行われる二次放流にわけて放流されます。

琵琶湖産の稚魚は、株式会社鳥塚さんからやって来ます。鳥塚社長さんは、「今年の稚魚は、とつてもいいですよ。」と自信たっぷりにお話しされました。昨年は琵琶湖産の稚魚を確保するのに大変だった年でした。今年の稚魚は見るからに力強く泳ぎ、流水めがけて飛ぶ姿がたくさん見られました。

和良川に着いてからは、到着を待ちわびていた和良川漁業協同組合の関係者によるバケツリレーや、シューターでの放流を行いました。放流された10cm程の稚鮎は上流めがけて勢いよく泳ぎだしました。元気な鮎は、和良川の主流はもちろん、鬼谷川、鹿倉川、土京川といった支流にも泳ぎだします。

少し気が早い気もしますが、毎年9月に高知県で開催される「清流めぐり利き鮎会」での今年の結果もすでに楽しみです。まずは、その前に解禁が待ち遠しいと言ったところでしょうか。

今年もみなさまのお越しをお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

2018年和良鮎解禁情報は以下のとおりです。
特別解禁：5月26日（土曜日）、27日（日曜日）
一般解禁：6月9日（土曜日）より



少量を放つ場所ではバケツリレーで放流



琵琶湖産の稚鮎が泳ぐ大きなけす
株式会社：鳥塚（滋賀県）

「ほたるの勉強会」参加者募集

— 蛍と和良川の環境について —

今年もあとひと月もすれば、蛍のシーズンがやってきます。和良町は蛍やカワニナの放流を行っておらず、人の手が介在しない自然な状態で、蛍の群舞が見られる、県下においても稀有な環境下にあります。これから先も長く、この環境を維持していただけるように、勉強会を開催いたしますので、皆様ぜひご参加下さい。

時間：19時30分より
ところ：わらおこし
和良町下洞554

参加費：無料

対象：どなたでも参加可能
主催：和良蛍を守る会
講師：向井貴彦先生



岐阜大学地域科学部 准教授
日本魚類学会自然保護委員
向井貴彦先生
専門分野は、魚類の進化・多様化、絶滅危惧種の保全や外来種問題。

川の生きもの研究のスペシャリストとして、これまでも和良川の鮎、和良川の水質調査などにも深く関わる。向井先生には和良川で開催するオオサンショウウオのツアー時には特別講師をお願いしており、子どもでも解りやすいお話しと気さくな人柄で子どもたちにも人気です。

【問合せ・申し込み先】
和良蛍を守る会事務局
☎0575（77）2277
（和良おこし協議会内）



座学の後の質疑応答タイムではたくさんの質問が寄せられた（写真は全て昨年度の様子 講師：溝口智子先生）

「和良蛭を守る会」会員募集
— 蛭と生息環境を守る活動 —



勉強会を通じて会員のスキルアップも図る



勉強会付きの蛭観察会では講師も務める

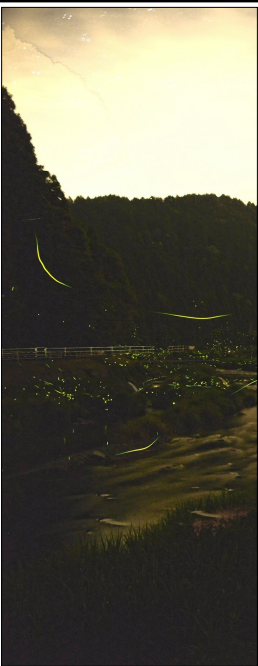
和良蛭を守る会は、ホタルとその生息環境を守ることを第一の目的とする和良町内外の有志で結成されています。ホタルなどの生きものに象徴される、他にはない和良の貴重な自然環境を地域のたからとして、後の世代に受け継いでもらえる様に、繋いでいくことを目指し活動をしています。

活動内容は、蛭の見られる期間中は、和良蛭の生態や生息域に関する調査や情報収集をしたり、自然環境と住民生活に配慮した蛭観賞におけるルール・マナーに関する啓発活動などを行っています。また、今後は広報誌による地域への情報発信などもしていきたいと考えています。

皆様も一緒に、楽しみながら無理のない範囲で活動に参加してみませんか？

問合せ・申し込み先：和良蛭を守る会事務局

☎0575(77)2277（和良おこし協議会内）



「和良の郷」に春を告げる祭礼
— 後世に繋ぎたい文化や伝統 —

4月を皮切りに今年の「和良の郷」での例祭がはじまりました。

郡上市和良町には十五の集落があり、それぞれにおいて祭礼が開催されています。春、夏、秋とそれぞれの地域において、五穀豊穰・家内安全・疫病退散・無病息災・安寧長寿・夫婦円満・子孫繁栄・祖先崇拝・豊樂万民・天下泰平・商売繁盛など、和良の暮らしの中で招福祈願、厄除祈念、それら成就に感謝して行われます。大神楽、伊勢神楽、獅子舞、舞児、悪魔払い、からくり山車、子供神輿などの神事や奉納といったものが少子化や高齢化によって、継続が難しくなった地域もあります。しかし、集落の人が繋がり、集まる機会として、大切で重要な事として想いを募らせ、守って行こうと話される方々も多いです。各集落では、これまで守り抜いてきた文化や伝統と歴史を、やはり後世に繋いでいきたいと、時代に即して様々な変化を受け入れながら、形を変えつつも努力を重ねています。

普段は古里を離れて暮らしている他出子の方々の中にも、この日は役者として参加される方もあります。また、地元のお祭りを楽しんだり、家族が集まる機会として、帰省される方も多くあります。

今年もお祭りにはぜひ古里へお帰り下さい。ちなみに、和良町で開催されている一番大きなお祭りは約400年の歴史を誇る戸隠神社の祭礼となりま



古里から離れた他出子も多く集った下沢



集会所に出張神社を併設した下土京

す。地元では「九頭の宮の祭」の愛称で親しまれ、郡上では珍しい、からくり山車の上演もされています。ぜひ多くの方に足を運んでいただいで、祭りを盛り上げ、共に楽しんでもらえれば嬉しく思います。

- 平成三十年度、今後の祭礼日程となります。
- 7月29日（日曜日） 鹿倉・白山神社
 - 8月19日（日曜日） 田平・白山神社
 - 9月2日（日曜日） 野尻・八幡神社
 - 9月23日（日曜日） 宮代・白山神社
 - 10月7日（日曜日） 宮地、上沢・戸隠神社
- ※現在までの予定日となりますので、変更にはご注意ください。



下洞では他出子や女の子も立派に舞子を務めた



安郷野では大神楽の復活を願う声も聞かれる

和良町の人口

平成30年4月1日現在

人口

1,700人

男性

826人

女性

874人

世帯数

650世帯